

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和3年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている(80%以上)
B	おおむね達成できている(65~79%)
C	やや不十分である(50~64%)
D	不十分である(50%未満)

学校名	佐賀市立諸富南小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習における自学の取組について、選択制や内容の工夫等を学校全体で考えていく必要がある。 ・「生活指導の四本柱」に関しては、よくなってきているので継続して取り組んでいく。また、学校内だけでなく、家庭でもできるような子に育てていく。 ・教師の指導力は徐々に高まり、児童の学習意欲や集中力が向上しているため、今年度も指導方法の研究を継続して行っていく。算数タイムなど、基礎基本の徹底にも取り組み、テストの点数向上に努める。 ・良いところは継続して、ほめてのばし、改善点は具体的手立てを取り、全職員の共通理解で足並みを揃えて取り組んでいく。
------------------	--

2 学校教育目標	ふるさとを愛し、「夢」「ふれあい」「感動」のなかで、生き生きと輝く子どもの育成
----------	--

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 進んで考え共に学び合う子どもの育成をめざし、授業改善を図る。 ② 家庭・地域と連携し、基本的な力を育成する日常活動の充実を図る。 ③ 人権教育を充実させるとともに、特別支援教育に対する意識をさらに高める。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者	中間評価		5 最終評価			主な担当者
(1)共通評価項目					中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	重点取組	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)		達成度 (評価)		評価	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●「友達の意見をしっかりと聴いたり、自分の考えを友達に伝えたりすることができた」と思う児童の割合を80%以上	●県学力学習状況調査とCRTテストで、昨年度の結果を上回る	・授業の中で「めあて」と「まとめ」を明確に示し、確実な知識の定着化を目指す。 ・算数科における「聴き合い活動」を取り入れた授業を各教科・領域で行い、思考力、活用力を育てる学習を進める。 ・朝の時間に算数スキルタイム、国語スキルタイム、スピーチタイムを行い基礎基本の定着を図る。 ・3年から6年の算数で各学級週3時間以上、児童一人一人の興味関心や課題の習熟度などを考慮した、少人数やTTの授業を実施する。	・学力向上対策Co. ・研究主任 ・「やる気の子」					・学力向上対策Co. ・研究主任 ・「やる気の子」
		○保護者との連携による家庭学習の充実	○「子どもは家庭学習に取り組んでいる」という保護者の割合を80%以上	・基本的な家庭学習の習慣化を図るために「家庭学習の手引き」を配付し、保護者に懇談会や便り等を通して周知徹底を図る。 ・「夜9時からは、ネットもゲームも充電中」のステッカーについて、80%以上の児童が合い言葉にできるよう、周知する。	・学力向上対策Co. ・研究主任 ・「やる気の子」					・学力向上対策Co. ・研究主任 ・「やる気の子」
	●思いやりのある関わりができる児童の育成	○道徳の授業を年に1回以上保護者等に公開 ○「ありがとうの木」の取組で、カードを毎学期に1枚以上書くことができた児童70%以上 ○「友達に優しくしたり、優しくしてもらって嬉しかったりしたことがある」と感じる児童90%以上	○6月や12月のフリー参観デーや授業参観時に全学級道徳の授業を公開する。 ○道徳の授業の充実が図れるよう研修を行うとともに、学年部で話し合い実践する。 ○「ありがとうの木」活動を推奨し、呼びかけ、取り組ませる。 ○「承認」、「賞賛」を職員が率先して行い、児童の自尊感情を高め、居心地の良い集団作りを目指す。	・「やさしい子」 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任						・「やさしい子」 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめを受けたり、いじめたりすることなく、楽しい学校生活を送ることができた」と実感できている児童が90%以上	○毎月、児童アンケート調査を行い、いじめの早期発見に努める。 ○アンケート調査の結果をもとに、いじめ防止対策委員会で対応を協議し、迅速に対応する。 ○「生徒指導委員会」でいじめ防止に関する取り組みについて確認し、取り組んでいく。 ○校内研修によりいじめの対応方法について学ぶとともに、日々の教育活動の中でいじめの防止と早期発見に取り組む。 ○グループ活動における児童の相互理解や心の寛容性を高める関わりを日々行っていく。	・「やさしい子」 ・生徒指導担当 ・各学年主任						・「やさしい子」 ・生徒指導担当 ・各学年主任
	◎志を高める教育	○小学校卒業後の自らの夢や目標をもち、その実現に向けて頑張ろうと思う気持ちをもつことの出来る児童が80%以上	・全ての学年において学校行事や各教科等を通し、自分の夢や目標を持つことの出来る機会を設ける。 ・4年生は二分の一成人式を通して、6年生は卒業に向けて、夢や目標を自ら考え、語る事ができる場面を設ける。	・校長 ・総合担当 ・4、6年学年主任						・校長 ・総合担当 ・4、6年学年主任
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①学校での外遊びの時間が1週間で100分以上の児童70%以上	①「運動習慣の改善や定着化」 ・積極的に外遊びを奨励し、一日の運動時間を最低30分間は確保する(始業前、業間休み、昼休み、放課後等)。 ・体力を高めるための楽しい運動の紹介をしたり体育の授業で実践したりする。 ・めあてを持たせ「縄跳び運動」「ボールを使った運動」「運動場ランニング(3分間走)」等に取り組ませる。	・「元気な子」 ・「やさしい子」 ・生徒指導担当						・「元気な子」 ・「やさしい子」 ・生徒指導担当
	②「望ましい生活習慣の形成」	②「望ましい生活習慣の形成」 ・「やる気の子育成部」「やさしい子育成部」の計画に基づき、共通認識のもとに全校で統一した指導を行い、「生活指導四本柱」の各柱の定着率80%以上 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の定着を図り、児童や家庭にもその協力を呼びかけ、達成率85%以上	②「望ましい生活習慣の形成」 ・重点目標達成委員会において取組状況を確認し、指導の徹底を図る。具体的な取組は各育成部で検討提案する。 ・「南っ子生活チェック週間」を学期毎に設定し、児童と保護者の規則正しい生活に対する意識向上を図る。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・成績2期制の導入に等より業務改善ができた(職場全体として図られた)と感じる職員70%以上 ・昨年度より退勤時刻が早くなったと感じる職員70%以上	・働き方改革に関する研修を短時間で定期的に行い、意識改革を図る。 ・「定時退勤日」を水曜と金曜の選択とし推進する。 ・各自、昨年度より退勤時刻の20分短縮を目指す。 ・成績2期制の導入や学校行事や会議等の精選を行い、職員の業務時間を確保する。	・教頭						・教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者	中間評価		最終評価			主な担当者
評価項目	重点取組内容	重点取組	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)		達成度 (評価)		評価	
○教職員の資質向上	○教員の専門性と意欲の向上	○全職員が算数科を中心とした研究授業を1回以上	○研究指定3年の実績の上、確かな学力の定着と向上にむけて「わかる授業の実践」「振り返りの場の設定と充実」を校内研修等を通して実践化を図る。		・教頭 ・指導教諭 ・研究主任					
○特別支援教育の充実と拡張	○支援が必要な児童に対する理解と支援の在り方	○「学校が楽しい」と感じる児童90%以上 ○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っていると感じる職員が95%以上	・担任・級外・生活指導員同士の情報交換の場を確保し、児童理解に努める。 ・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。 ・「職員連絡会」等でもて見守りたい児童の状況について報告し、全職員の共通理解を図る。 ・月1回の「生徒指導協議会」で児童への適切なサポートについて協議する。 ・スクールカウンセラー、巡回相談訪問、ケース会議を通して、支援方法を探るとともにミニ研修会を実施し特別支援に対する啓発活動を行う。 ・個別の支援計画をもとに、継続的な支援を図る。	・「やさしい子」 ・特別支援教育Co.					・「やさしい子」 ・特別支援教育Co.	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--